

令和元年度 第2回千歳市公営企業経営審議会 会議録

日 時 令和2年2月20日（木） 14：20～16：00
場 所 千歳市水道局2階会議室
出席者 別紙名簿のとおり

1 委員の紹介

2 水道局職員の紹介

3 開会

4 会長及び副会長選出

5 会長及び副会長挨拶

6 報告等

- (1) 千歳市水道事業の概要について
資料に基づき内容を説明。
(説明者)
工事課 谷藤課長

【質疑等】

特になし。

- (2) 千歳市下水道事業の概要、水道局の業務内容について
資料に基づき内容を説明。
(説明者)
工事課 谷藤課長（概要）、総務課 大脇課長（業務内容）

【質疑等】

(斉藤委員)

胆振東部地震で破損した管はなかったとのことだが、地盤がしっかりしていたのか、日頃の水道管の整備によるものか、どちらなのか。

(谷藤工事課長)

千歳市では、水道管工事の際、震度7以上の地震に対応できることを想定した耐震管を布設している。胆振東部地震で発生した揺れは震度5強から6弱であり、当時耐震管が整備されていた箇所は市内の広範囲に及んでいた。よって、今回の場合は発生した地震に対応できる管が既に布設されていたということになる。

(斉藤委員)

了知した。

- (3) 令和2年度千歳市水道事業会計予算案について
資料に基づき内容を説明。

(説明者)

総務課財政係 小嶋主事

【質疑等】

(松本委員)

審議会資料11ページの項目に「水道PR推進事業」とある。数年前に作られたようなペットボトル入りの千歳の水を販売することもPRの手段として有効だと考えるが、なぜ販売しないのか。

(大脇総務課長)

以前に市政施行50周年記念でペットボトル入りの水を作り、イベントや会議等で配布したことがある。しかし、発注本数が少ないと一本当たりの単価が高くなり、原価と売値との兼ね合いが難しい。実際に販売するとなると、市販のミネラルウォーターよりも高くなる。さらに、水道水をペットボトルにそのまま入れて販売することはできない。前回は業者に頼んで熱処理やろ過を行い、ボトルに賞味期限を記入した。このように、衛生面での安全が保証される状態にするための処理コストもかかり、販売は難しい。何らかの記念行事等がある際に、前回同様にペットボトルを作り、PRを兼ねて配布することについては、検討の余地があると思う。

(松本委員)

恵庭の水というものもあるが、なぜ恵庭にはあって千歳にはないのか。もっと千歳市民が愛せるようなものがあればよいと考える。本州に住んでいる知人も千歳の水はおいしいと気に入っており、何本もの大きなボトルに入れて送ることもある。遠方の方にも愛されている水をPRできないのか。

(牧野管理者)

販売のためのボトリングには相当の経費がかかり、市販のミネラルウォーター等と同等の価格で提供するとなると採算が取れない。配布する場合についても製造費用が全額水道事業会計の負担となる。PRの手段としてペットボトル入りの水の販売は有効だが、会計の負担分は巡り巡って市民の水道料金からいただくことになるため、もし事業化するのであれば、市民の皆様の賛同を得られるかを確認しながら慎重に検討しなければならない。他市でもPRの方法の一つとして水を販売しているところはあるが、同様のコストがかかっている。

当市で実施できる最善のPR方法は、蛇口から出る上質な水道水を直接飲んで味わっていただくことだと考えている。今回の予算案にも、水道局庁舎前に水を飲んだり汲んだりできるような水飲み台を設置する費用を計上している。道の駅にも水飲み台があるが、現状では名水百選に選定された水が飲めるということがわからないため、その旨を表示してPRに努めたい。昨年度から力を入れはじめた事業であるが、来年度以降も積極的に取り組みたい。

(松本委員)

以前、支笏湖が千歳にあるのを市外の人が認知していないことを痛感する出来事があった。認知のためのアピールはまだまだ必要であり、水道局だけでなく、市全体でPRに取り組み、千歳を盛り上げていくべきである。

(牧野管理者)

千歳市が誇る水質日本一の支笏湖や、その支笏湖から注ぐ千歳川の水を使った上質な水道水を、よりPRしていかななくてはならないと考えている。

(4) 令和2年度千歳市下水道事業会計予算案について
資料に基づき内容を説明。

(説明者)

総務課財政係 西館主任

【質疑等】

特になし。

7 その他

○石狩東部広域水道企業団からの受水について

(荒井委員)

なぜ漁川の水を受水しているのか。受水費はどのくらいになるのか。

(大脇総務課長)

金額については、千歳市公営企業会計予算書35ページの区分37節「受水費」に記載のとおりである。千歳川分と合算した金額となるが、税込みで6億5,460万円である。市として人口や工業団地の計画的な増加を見込み、将来的に水量が不足するとして、漁川、千歳川からの受水を開始した。災害対策の視点から見ても、漁川、千歳川、内別川といった多系統の水源を確保することで、災害時などで全市断水を防ぐことが可能になるといえる。

(荒井委員)

漁川の給水ラインはどうなっているのか。

(大脇総務課長)

パンフレット「ちとせのみず」6ページを参照していただきたい。給水ラインについては、矢印で示されたとおりで、漁川から取水された水は、石狩東部広域水道企業団の漁川浄水場で浄水されたあと、上長都高架配水池に溜められ、配水池からは自然流下で供給している。

8 閉会

以上